

レファレンス事例

—特集—

当「参考書誌研究」編集部では、創刊以来、当館参考書誌部各課でとりあつかった文書レファレンスのなかから適当なものを選んで「レファレンス事例」として掲載してまいりましたが、最近館内・外の方からレファレンス事例をもっと掲載せよとのご要望があり

ましたので、ここに最近の文書レファレンスから9件をえらんで紹介いたします。なお質問の文章は編集部で原意をそこなわない程度に変更させていただきました。

—編集部—

質問 1

おいそがしいところ恐縮ですが、下記の件についてお教え下さい。

英国女王陛下の衛兵交替をテレビで見ますと、ひざをまげずつま先から着地する古例を踏襲していますが、日本では、おおむね踵から着地するのが自衛隊等の基本のようですが、あやまりでしょうか。このような「静じょう歩」の歩き方について、特に陸・海上自衛隊の鼓笛隊や閱兵時における隊員の歩き方について、外国の例なども含めて図解している参考資料をお教えください。
<個人から>

回答

お申しこしの「静じょう歩の歩き方」について、下記のとおり回答いたします。

自衛隊で用いられている歩き方は、自衛隊の訓練用教科書『基本教練』に記載されています。当館ではこの教科書を所蔵していませんので、直接防衛庁に照会いたしました。

それによると、閱兵などの儀式で用いられる歩き方は「はや足」と呼ばれるもので、「歩幅75cm。(婦人自衛官の場合は、70cm)、速度毎分120歩、ひざを伸ばして自然に歩く。脚の角度は前方45°、後方15°」と、要約され、着地の仕方については特に定められていないということです。また「静じょう歩」という名の歩き方は定められていないようです。

各国の例について書かれた文献も当館には見当りません。

一般に、歩き方についての研究は体育学や整形外科医学の分野に属しますが、お問い合わせの問題については、さしあたり次の図書を利用されるのが適当かと思われま

()内は当館の図書請求記号です。

歩行の美と力 奈良岡良二 第一法規
出版 昭44 (782.3—N637h)

正常および病的歩行の研究 デュクロク
著 鈴木良平訳 医歯薬出版 昭48
(SC557—12)

<参レ第901号>

質問 2

外国人のための日本語教育にかんする本・雑誌またはその目録（外国人むきの日本語教育・教科書）についてご教示下さい。

〈大学図書館から〉

回答

ご照会の件の趣旨を、「外国人に日本語を教える日本人教師のための参考書」と理解して、回答申しあげます。

(1) 参考書の類について

文化庁では、「外国人に対する日本語教育に携わっている人々を対象」として、「日本語教育指導参考書」と題するシリーズを刊行しています。同シリーズの既刊分は下掲のとおりです。

第1冊 「音声と音声教育」

第2冊 「待遇表現」

第3冊 「日本語教授法の諸問題」

各冊の巻末には参考文献目録が掲載されていますが、第3冊には「日本語教授法参考文献」と題する目録があります。

また、文化庁では、「外国人に日本語を教えるという立場から、日本語を考えてみようという趣旨」で編集した「国語シリーズ別冊」と題するシリーズを刊行しています。同シリーズの既刊分は下掲のとおりです。

第1冊 「日本語と日本語教育一語彙編」

第2冊 「日本語と日本語教育一文法編」

この両シリーズとも、なお引き続いて刊行される予定とのことですが、既刊分については貴地所在の「政府刊行物サービス・ステーション」でも入手できることかと思われます。

なお、下掲の図書もご参考になりましょう。

「覆刻 文化庁国語シリーズ 第5巻 外国語と日本語」 教育出版 昭和49本巻は、昭和25年以降、文部省（のちに文化庁）が刊行して来た「国語シリーズ」（既刊67冊）中から、日本語と外国語との関連を取り扱った5冊を選んで1巻にまとめたものであり、そのなかには「外国人に対する日本語教育」と題する編が含まれています。

(2) 雑誌の類について

「外国人に対する日本語教育」関係の雑誌の類で現在刊行中のものには、下掲の2点が見当たりました。

「日本語教育」 外国人のための日本語教育学会（東京外国語大学附属日本語学校内）発行

「日本語教育研究」 言語文化研究所（東京日本語学校気付）発行

なお、雑誌に準ずるものとしては、下掲の講座があります。

「講座 日本教育」 早稲田大学語学教育研究所発行

本講座は昭和40年以降刊行されており、既刊分は現在第10分冊までです。

最近の雑誌では、「言語生活」（第279号 昭和49年12月号）に、「特集・外国人のための日本語教育」があることを申しそえます。

(3) 目録の類について

「外国人に対する日本語教育」関係文献の目録で、公刊されたものは見当たりませんが、前記「日本教育指導参考書 第3冊 日本教授法の諸問題」巻末付載の参考文献目録などは、ある程度お役に立とうかと思われれます。

(4) 教科書の類について

外国人が日本語を学習するための読本、文法書、会話書等の類は、国内でも海外でも相当数出版されており、その一々は列挙いたしかねますので、さしあたり文化庁編集（大蔵省印刷局発行）のものを紹介申し上げます。

「外国人のための日本語読本 初級
第1冊～第7冊」 昭和48

「外国人のための日本語読本 中級
第1冊～ 」 昭和49～

「外国人のための日本語読本 上級
第1冊～第8冊」 昭和44

上掲の読本は、「日本語学習教材」と題するシリーズに含まれており、これも貴地所在の「政府刊行物サービス・ステーション」で入手できることかと思われま

す。 <参レ第639号>

質問 3

空手道の歴史・日本での現況などについて、御教示を乞う。

<国会議員から>

回答

1. 空手の歴史

中国の拳法は、達摩大師が約1,500年前、河南省の崇山小林寺にとどまり、心・身の鍛練を行なったことに始まると伝えられる。この小林寺拳法は後に宋・明の時代に至り、武術として普及発展した。ところが、清代に至り、明の復興を志す秘密結社の組織に拳法が利用されたため、弾圧を受け、そのため拳法者は四散してわずかに秘法としてこれを伝えた。

<琉球への伝来>

琉球と明との朝貢関係が結ばれた14世紀

半ばに伝わった拳法を「唐手(とうてい)」とよび、琉球にもとからあったものを「手(て)」とよんだ。「唐手」が、いつ中国から伝わり、どんな経路で「手」と合流発達したかは、歴史的要因によるべき文献がない。ただ、1429年尚氏が琉球全域を統一してから200年の間、刀令を出し武器の携行を禁じ、続いて1609年その統治に当たった島津氏も同じように禁武政策をとったので、当時の琉球士族の間で、護身術としてひそかに練磨研究され、いわゆる空手ができあがったものであろう。

<日本での普及>

空手が日本全土に知られるようになったのは、大正11年、文部省主催の第一回体育博覧会が、お茶の水体育館で開かれたとき、沖縄出身の船越義珍が公開演武してからである。その後摩文仁賢和(まぶにけんわ)、本部朝基(もとぶちょうき)が内地に來り、普及につとめた。

<戦後の状況>

他の武道と同様戦後衰微の時期があったが、昭和30年頃から、戦前にもまして隆盛におもむいた。さらに近年は海外における流行が著しい。

空手道には数多くの流派があり、それぞれ独自の伝統を持ち、その秘術的武道の性格から群雄割拠の状況にあったが、近代的体育として発展していくため、大同団結が要望されて、昭和41年全日本空手道連盟が結成された。

2. 空手の流派数と主な流派

流派は大小合わせて200以上が数えられるが、その主なものは、松濤館流、剛柔流、糸東流、和道流、錬武会があり、その他小流派の連合組織である連合会がある。

3. 空手人口

全国空手道連盟の下部団体である都道府県連盟に所属する会員数は合計100万人である。一応この数わが国の空手人口と見てよいと思われる。

質問 4

前 略

当図書館で次のような出版物を集めたく、ご教示願います。

- 1 第2次大戦の戦争体験の記録の出版リストと入手方法
- 2 関東大震災の体験記録の出版されているものうち、オリジナルなもの入手方法

ごめんどうなお願いですが、よろしくご願ひ申し上げます。

<高等学校図書館から>

回 答

下記のとおり回答いたします。

1. 第2次大戦の戦争体験の記録の出版リストと入手方法

お尋ねのような記録類の刊行物は、非常に点数が多くなりますので関係の主要な書誌・文献目録等のご案内をいたします。戦争体験全般に及ぶもの、特定の主題をもつものの順で記しました。

<全 般>

- (1) 戦後記録文学文献目録稿 国立国会図書館編刊 1949年 195p.

1945年8月～1949年12月に刊行された単行本、雑誌・新聞を対象とする。

(915.9—Ko548s)

- (2) リスト—読者にすすめたい50冊
戦争とはなんだ 安田武 三一書房
1966年 215p. pp.192—210

高校生を対象に、体験記録等を中心にまとめた解題つき目録。

(210.75—Y587s)

- (3) 太平洋戦史文献解題 井門寛 新人物往来社 1971年 330p.

将兵・軍属・非戦闘員の体験にもとづく記録類の1941～1970年の単行本、1945年8月～1970年の雑誌記事の解題つき目録。
(GB1—13)

- (4) 昭和時代—15年戦争の資料集—一角家文雄 学陽書房 1973年 404p.

太平洋戦争、学徒出陣、終戦、ヒロシマ等の章毎にまとめられた資料集だが各章の末尾の参考書欄にかなりの体験記録類が掲げられている。

(GB511—23)

- (5) 文献案内

ドキュメント・昭和史 4 太平洋戦争
原田勝正編 平凡社 1975 326p.
pp.322—326 (GB511—36)

<俘虜・引揚>

- (6) 俘虜の実態を知るための90冊の本
—太平洋戦争無名兵士の証言・屈辱の記録— 福島鏗郎

「新評」1972年8月号 pp.238—255
外地での戦犯・捕虜・引揚・兵士及び一般邦人の手記類の解題つき目録。1955年までに刊行されたもの。

<疎 開>

- (7) 疎開関係資料

青春の記録 1 あしたの墓銘碑 安田武編 三一書房 1973年 334p.
pp.190—192 (US53—52)

<原 爆>

- (8) 文献案内

ヒロシマの記録—年表・資料篇 中国新聞社編 未来社 1966年 246p.
pp.238—244 (217.6—Ty996 h 2)

(9) 長崎原爆に関する文献目録—昭和20.8
～昭和46.7—

ナガサキ—忘れられた原爆— フラ
ング・W・チンノック著 小山内宏訳
新人物往来社 1971年 335p.
pp. 327—333 (GB554—85)

(10) 原爆被災資料総目録 第3集 原爆手
記 広島の一部 原爆被災資料広島研究
会編刊 1972年 386p.

1971年までに発表されたものを掲載書
・雑誌の年月順に解題する。人名索引
を付す。 (GB1—10)

(11) 原爆文学史 長岡弘芳 風媒社
1973年 276p.

原爆文学通史および年表・資料の章に
体験記録類のリストが掲げられてい
る。 (KG322—127)

<空襲・戦災>

(12) 空襲・戦災に関する戦後出版物リスト
東京大空襲 戦災誌 4 報道著作 体
験集 東京空襲を記録する会 講談社
1975年 1034p. pp. 491—493

東京空襲に関する資料を中心に、罹災
体験記録・関係文献等の発行年順のリス
ト。1972年まで収録。

なお、著作記録の部には、空襲・戦災
の日記、記録、文学作品等の紹介もさ
れている。 (GB541—53)

また、体験記録類を中心に、全集等にま
とめられたものが各種ありますが、その一
部をつぎに掲げますのでご利用ください。

(13) 実録太平洋戦争 全7巻 伊藤正徳
富岡定俊・稲田正純監修 中央公論社
1960年 (210.75—Z32)

(14) 現代教養全集 第3巻(戦争の記録)
第18巻(敗戦の記録) 白井吉見編 筑摩
書房 1958～1960年。

(081.6—U772g)

(15) 昭和戦争文学全集 全16巻 阿川弘
之ほか編 集英社 1964～1970年
(918.6—Sy9163)

(16) 近代日本の名著 第9巻(戦争体験)
山田宗陸編 徳間書店 1966年
(081.6—K234)

(17) 現代日本記録全集
第21巻(太平洋戦争) 会田雄次編
第22巻(戦火の中で) 高木俊朗編
第23巻(敗戦の記録) 作藤忠男編
筑摩書房 1969年
(210.6—G292)

なお、現在刊行中のものに、以下のシリ
ーズがありますので、個々のタイトルは出
版社等にお問い合わせください。

(18) シリーズ・戦争の証言
太平出版社 1971年～

(19) 戦争を知らない世代へ
第三文明社 1974～

2. 年関東大震災の体験記録

体験記録でオリジナルなものという意味
がはっきりしませんが、官公庁の公的記録
で体験記を含めているもの、歴史記録で体
験記を利用しているものその他のうち、比
較的最近発行された入手可能と思われるも
のを次に紹介します。

東京府大正震災誌 中外書房(神戸市
東灘区御影本町二丁目) 昭和46年5
月(東京都より大正14年5月発行の
縮刷復刻版) (EG77—35)

関東大震災 中島陽一郎著 雄山閣
昭和48年 本書は体験記ではないが、
当時の写真を多数挿入し実相を紹介し
ている。 (GB481—2)

関東大震災 吉村昭著 文芸春秋 昭
和48年 体験者の話をまとめたもの
で、参考文献を付している。

(GB481—3)

現代史資料 (6) 関東大震災と朝鮮人
 姜徳相・琴東洞編 みすず書房
 (210.7—G29)

日本の百年 (5) 震災にゆらく (著者
 代表 鶴見俊輔) 筑摩書房
 (210.6—N6872—T)
 <参レ第797号>

質問 5

To whom it may concern;

I understand that the "Pill" has been outlawed in Japan.

I'd be grateful if you would secure for me whatever reports or documents that you can with respect to the medical reasons for the passage of that law.

Yours very truly.

Dr. _____

Prof. of Phill.

P.S. I cannot read Japanese, so I would prefer to have English translations.

関係各位;

いわゆる「ピル」は、日本では禁止されているようですが、その禁止法を成立させた医学の見地からする報告書あるいはドキュメントを御教示下されば幸甚に存じます。

敬 具
 文学部教授

二伸：私は日本語が読めませんが、英訳したものをお願いいたします。

<アメリカ・個人から>

回 答

下記のとおり回答いたします。

日本における経口避妊薬（ピル）の行政的経緯は次のとおりです。

- 1960～1971 月経異常，機能的な不妊症等の治療ホルモン薬として発売が許可
- 1971.12 同製剤が避妊の効能をもつことを教示あるいは暗示することを禁止
- 1972.4 医師の指示か処方箋がなければ購入できない要指示医薬品に指定

これらの経緯に対する医学上のまとまった研究報告書は種々調査しましたが、当館にはありません。しかし、これに関する最近の研究文献がありましたので、英文抄録のあるものを複写し、添付(Supplement 1)します。また、最近国会でも問題になり、国会会議録のうち関係ある部分を添付(Supplement 2)しますので日本語のできる方にご相談下さい。

Supplement 1. "Clinical studies on the low-dosage norgestrel-ethinyl estradiol combination as a long term oral contraception"

(京都府立医科大学産婦人科学教室 『産婦人科の進歩』 26巻1号 1974.1 pp.53～54 英文レジュメ付)のコピー3枚

Supplement 2. 「女性ホルモンを含む医薬品の販売規制に関する質問主意書」(『官報』昭和48年12月14日 参議院会議録第4号)所収

その他『官報』からのコピー8枚
 <回答文の英訳>略

<参レ第206号>

質問 6

下記の件につきまして下記の要領にてご指導下さい。

記

1. 自閉症児の行動療法にかんする、
和・洋、最近のもの

以上

追伸：本学にて「雑誌記事索引」「名古屋大学研究紀要」は検索しました。

<大学図書館から>

回 答

お問合わせの件に関しましては、当館には次の様なものがあります。()内は、当館請求記号です。

<図 書>

平井信義, 石井哲雄

自閉症児の治療教育 東京 日本小児医学出版社 昭和45 381p.

(SC422—8)

尾杉禎子

あなたの笑いは素晴らしい—自閉症児童教育の記録 東京 中央公論事業 1972

228p. (FG6—45)

玉井收介

自閉症の実践教育 東京 蠶教育出版

1974 210p. (FG8—9)

小林提樹

自閉性精神薄弱児の家庭指導 東京 福村出版 1971 164p. (FG6—37)

十亀史郎

自閉症児・緘黙児—講座 情緒障害児

3巻 名古屋 黎明書店 1973 209p. (FG1—32)

O'Gorman, Gerald 著 白橋宏一郎監訳

子どもの自閉症 東京 北望社 1970 215p. (SC422—10)

(本書の巻末に参考文献がのっています)

す)

Leland, Henry 桜井芳郎編訳

精神薄弱児の行動療法—心身障害双書

5— 東京 岩崎学術出版 1971 335p. 付：参考文献 (FG6—32)

ウォルピ, J. 内山喜久雄監訳

行動療法の実際 名古屋 黎明書房 1971 263p. (SC381—11)

祐宗省三, 他 行動療法入門 東京

川島書店 1972 293p. 付：参考文献 (SC381—16)

異常行動研究会編 行動病理学ハンドブ

ック 東京 誠信書房 1969 422p. (SB231—4)

牛島義友

精神薄弱児の治療教育(上)(下) 東京 慶応通信社 昭和48 2冊 (FG6—62)

全国情緒障害教育研究会編

自閉児—情緒障害児の教育 2— 東京 日本文化科学社 昭和49 233p.

(FG6—83)

ローナ, ウィング 四国学院大学自閉症研

究グループ訳 自閉症児との接し方

京都 ルガルル 1973 126p.

(SC422—32)

内山喜久雄他

行動療法の理論と技術—講座 心理療法

第2巻 東京 日本文化科学社 昭和48 246p. (SB237—27)

<雑誌論文>

梅津耕作他 自閉児の行動療法(I~V)

(精神医学研究所業績集 16巻~17巻 1969 2冊) (Z19—327)

十亀史郎 子どもの自閉症

(教育と医学 16巻8号 1968 p.731~737) (Z7—193)

<欧文図書>

Rimland, Bernard. 1929—

Infantile autism: the syndrome and its implications for a neutral theory of behavior. New York, Appleton-Century-Crofts. 282 p. 1964. Incl. bibliography. (SC377-3)

Wing, J.K.

Early childhood autism; clinical, educational and social aspects. Oxford, Pergamon Press, 1966. 333 p. (SC377-2)

Mendel, Werener M.

The therapeutic management of psychological illness; the theory and practice of supportive care. New York, Basic Books, 1967. 255 p. Incl. bibliography. (SC381-1)

なお、直接関係のないものも含まれていますが、国内の行動療法に関する資料集がありましたので、参考までにお知らせします。

—梅津耕作，篁一誠「我が国における行動療法の現状（資料）」（『精神医学研究所業績集』1969年 第16輯 pp. 61～67）のコピーを添付。

<参レ第685号>

質問 7

前略

『楔形文字入門』（杉勇著 昭和43中公新書）によりますと、

- シカゴ大学の Landsberger 主任のもとで『シュメール語辞典資料』を刊行中
- 同主任編集にかかる『シュメール語辞典資料大成』は現在第8巻第1分冊まで刊行

- W. von Soden により『アッシリア語中辞典』が現在刊行中
- Soden は『アッカド語文法』『アッカド語字音表』の新版を準備中
- シカゴ大学で『アッシリア語辞典』を刊行中

とありますが、この種の書物の入手方法、ならびに類書をご教示いただけませんか。また、『古代エジプト語辞典』といった本は出版されていませんか、お教えください。

<個人から>

回答

- A) アッカド語（アッシリア・バビロニア語）辞書
1. University of Chicago. Oriental Institute: The Assyrian dictionary. Chicago, 1956- (20 v.) (in progress) (当館請求記号 KM1-1)
 2. Delitzsch, Friedrich: Assyrisches Handwörterbuch. Leipzig, J.C.Hinrichs'sche, 1896. Leipzig, Zentralantiquariat der Deutschen Demokratischen Republik, 1968. 730 p. (当館請求記号 KM1-8)
 3. Muss-Arnolt, William: A concise dictionary of the Assyrian languages. Berlin, Reuther und Reichardt, 1894-1905. 1202 p.
 4. Meissner, Bruno: Supplement zu den Assyrischen Wörterbüchern (of F. Delitzsch & W. Muss-Arnolt). Leiden, E.J.Brill, 1898. 106, 32 p.
 5. Norris, Edward S.: Assyrian dictionary; intended to further the study of the cuneiform inscriptions of Assyrian and Babylonia. London, 1868-72. 3pts (1068 p.)

No more published.

6. Soden, Wolfram, Freiherr von: Akkadisches Handwörterbuch, unter Benutzung des lexikalischen Nachlasses von Bruno Meissner. Wiesbaden, Harrassowitz, 1959- (in progress)

7. ———: Das akkadische Syllabar. Roma, 1948. 110 p.

8. Oraham, Alexander Joseph: Oraham's Dictionary of the stabilized and enriched Assyrian languages and English. Chicago, Consolidated Press, 1943. 576p.

B) シュメール語辞書

9. Deimel, Anton: Sumerisches Lexicon. Romae, Pontificum institutum biblicum, 1928-62. 4 v. in 8.

(Scripta Pontificii instituti biblici)

C) 文法書

10. Lipin, Lee Aleksandrovich: The Akkadian language. Moscow, Nauk Pub. House, Central Dept. of Oriental Literature, 1973. 187p.

(当館請求記号 KM1-9)

11. Soden, Wolfram, Freiherr von: Grundriss der akkadischen Grammatik. Roma, 1952. 274,51p. (Analecta orientalia, No. 33)

12. Castellino, Giorgio Raffaele: The Akkadian personal pronouns and verbal system in the light of Semitic and Hamitic. Leiden, E. J. Brill, 1962. 165p.

13. Deimel, Anton: Sumerische grammatik der archaistischen Texte mit übungsstücken (zum selbstunterricht). Romae, Pontificum institutum biblicum, 1924. 324p.

14. Rosengarten, Yvonne: Le concept sumérien de consommation dans la vie

économique et religieuse; étude linguistique et sociale d'après les textes présargoniques de Lagas. Paris, E. de Boccard, 1960. 455p. (Thèse-Paris)

(当館請求記号 499.9-R815c)

D) 資料集

15. Gelb, Ignace J.: Materials for the Assyrian dictionary. Chicago, University of Chicago Press, 1952- (in progress)

16. Landsberger, Benno: Materialien zum sumerischen Lexikon. Vokabulare und Formularbücher. Roma, 1937- (in progress) (Scripta Pontificii instituti biblici)

17. Sumerian and Akkadian cuneiform texts in the collection of the World Heritage Museum of the University of Illinois, ed. by Shin T. Kang. Urbana, University of Illinois Press, 1972-

9a. Delitzsch, Friedrich: Sumerisches glossar. Leipzig, J.C.Hinrichs, 1914. 295 p.

(当館請求記号 KE45-2)

E) 古代エジプト語辞典

18. Budge, Sir Earnest A. Wallis: An Egyptian hieroglyphic dictionary. London, John Murray, 1920. 1356p.

(当館請求記号 493.103-E32)

(アジア・アフリカ資料室保管)

アッカド語辞書につきましては現代のアメリカ学者を結集して編纂刊行中のA(1)が最も権威あるものと認められています。完成すれば20巻の予定ですが、現在のところ12巻しか刊行されていません。これはアジア・アフリカ資料室で保管しています。

A(6) 巻1～2のみ刊行

<海外留学中の邦人から>

- D(15) } お尋ねの「シュメール語辞典資料」
D(16) } および「シュメール語辞典資料大成」
と存じます。
- A(6) } それぞれ御指摘の「アッシリア語辞
A(7) } 典」「アッカド語字音表」および「ア
C(11) } ッカド語文法」と思われます。
- A(1) シカゴ大学の「アッシリア語辞典」
とはこれでしょう。
- E(18) 古代エジプト語辞書のうち、有名で
かつ当館所蔵のものをあげました。

なおA(1)の「アッシリア語辞典」の序論
(I. J. Gelb 執筆)が非常に参考になると
思います。是非御一読下さい。

入手方法につきましては、洋書専門店(た
とえば丸善古書部など)に御注文になれば、
さがしてくれると存じます。

<参レ第892号>

質問 8

前略ごめん下さい。

小生オランダ文部省給費生として留
学しております。只今オランダのみに
限らずヨーロッパ経済史という視点か
ら、万国博覧会 Exposition Univer-
selles の歴史を研究しています。そこ
で、1851年・1862年(ロンドン)、1867
年(パリ)で開かれた万博を見学した
日本人の旅行記・視察記を御教示願
います。ヴィーンに派遣されたワグネル
についてもお知らせ下さい。また日本
では万博の歴史といった書物が出版さ
れたことがあるのでしょうか。御多用中
恐れいたしますが、よろしく願
いいたします。

敬 具

回 答

下記のとおり回答いたします。

(1) ご存知のことと思いますが、万国博覧
会への日本政府としての初参加は1873年の
ウィーン万国博覧会からです。1851年(嘉
永4年)のロンドン万国博覧会のことにつ
いては当時、わが国では、ほとんど知られ
ていなかったといわれ、したがって見聞の
記録はありませんが、明治4年に至って、
文部省による輿地誌略の刊行に際して、僅
かに、これに触れた記事を掲載いたしてお
ります。

内田正雄(等)著 輿地誌略 全12巻
文部省 第4巻 52丁、53丁

1862年のロンドン万国博覧会は文久2年
の幕府による第一回遣欧使節が偶然にロ
ンドンで、それを見聞したことになってお
ります。この使節の随員 淵辺徳蔵の 欧行日
記、益頭駿次郎の 欧行記の、二記録が、し
ばしば、その後の研究文献の中に引用され
ておりますが、いずれも未刊のようです。
博覧会の趣旨を一般に知らせたのは、1866
年(慶応2年)に初版の出た 福沢諭吉の
『西洋事情』の博覧会の項ということにな
っております。また、同じく『福翁自伝』
の中にも回想的な一文が含まれておりま
す。

福沢諭吉全集 第1巻 西洋事情
p. 312
第7巻 福翁自伝
p. 100~108

岩波書店 昭和33年

1867年のパリ万国博覧会には、はじめて
幕府が正式に代表を特派しましたので、そ
の記録は次のとおり刊行されております。

日本史籍協会編 徳川昭武滞欧記録

1～3 東京大学出版会 昭和48年（昭和7年刊行のもの複製）

日本史籍協会編 渋沢栄一滞仏日記

東京大学出版会 昭和42（昭和3年刊行のもの複製）

前者は、この同じ叢書に入っている川勝家文書（1冊）とともに公式文書や公式記録を中心としたものですから、視察記とはちがいますがご参考までにあげました。渋沢日記は、日本人が具体的に博覧会を見ての感想や博覧会の観察を、ことこまかに伝えております。解題をみますと、「恐らく、他の随員も日記を記していたと考えられるが、空しく埋没してしまって今は目に触れることの出来るものはない」と記されて居ります。

(2) ワグネル (Wagner, Gottfried 1831-1892) についての文献は下記のとおりで

田中芳男・平山威信共編 澳国博覧会参同紀要 森山春雅 明治30(1897) 1冊 ゴッドフリイド・ワグネル君伝 付録 p.53～72

植田豊橋編 ワグネル伝 博覧会出版協会 大正14(1925) 1冊 年表伝記 p.1～31

故ワグネル博士記念事業会編 ワグネル先生追懐集 同会 昭和13(1938) 467p. 伝記 p.132～190 文献 p.191～412

土屋喬雄 日本資本主義史上の指導者たち 岩波書店 昭和14(1939) 226p. ゴトフリート・ワグネル p.205～226

楯西光速 政商 筑摩書房 昭和38(1963) 204,7p. ゴトフリート・ワグネル p.205～226

お雇い外国人 2 産業 鹿島研究所出版会 昭和43(1968) 博覧会 p.74～96

(3) 万国博覧会の歴史について書かれたもののうち、比較的最近刊行された図書だけをあげておきます。

浜口隆一、山口広共著 万国博物語 鹿島研究所出版会 昭和41 282,8p.

高橋邦太郎 チョンマゲ大使海を行くく百年前の万国博> 人物往来社 昭和42 265p.

春山行夫 万国博 筑摩書房 昭和42 270p. (グリーンベルト・シリーズ 90)

サンケイ新聞大阪本社社会部編 これが万国博だ その歴史と会場案内 サンケイ新聞社出版局 昭和44 249p.

吉田光邦 万国博覧会 技術文明史的に 日本放送出版協会 昭和45 245p.

なお、過去の万国博覧会関係の記録、報告書等を大阪府立図書館が収集し、次のような目録を刊行しておりますので、ご参考までに申し添えます。

大阪府立図書館蔵 万国博覧会関係資料目録 (A catalogue of the world's exposition collection in the Osaka prefectural library) 大阪府立図書館 昭和46 92p.

<参レ第227号>

質問 9

前略

当研究所では、日本の文化・政治など

について研究を続けています。そして現在は「北方領土」について研究しております。

つきましては、この問題を一層深く研究するにあたり、「北方領土」に関する最近の図書がありましたらお教えいただきたく、お願い申し上げます。なにとぞよろしくお願い致します。(原邦文)

<外国の研究機関から>

回 答

下記のとおり回答いたします。

お尋ねの件に関し、当館所蔵の図書に限定してご紹介申し上げます。カッコ内は当館請求記号。

- (1) 「北方領土問題資料集 増補改訂」
北方領土問題対策協会 昭和47 337p.
(A99—ZR5—7)
- (2) 遠藤晴久 「北方領土問題の真相—千島列島とヤルタ会談」 有信堂
昭和43 274p. (319.138—E57 h)
- (3) 浜西健次郎 「掠奪者の海—千島は還らざる島か」 東南アジア社 昭和34 147p. (319.199—H154 r)
- (4) 洞富雄 「北方領土の歴史と将来」 新樹社 昭和48 261,35p. (GG3—11)

- (5) 近藤字之 「ノサップ岬は知っている—残された戦後・南千島」 飯塚書房 昭和49 194p. (A99—ZR5—12)
 - (6) 南方同胞援護会 「北方領土問題関連資料—主として『グロムイコ覚え書』を中心として」 昭和35 151p.
(319.138—N628 h)
 - (7) 「千島問題と日本共産党」 日本共産党中央委員会出版局 昭和49 191p. (A99—ZR5—10)
 - (8) 大熊良一 「北方領土問題の歴史的背景—樺太千島交換条約に関する一史稿」 南方同胞援護会 昭和39 349.22p.
(319.138—O611 h)
 - (9) 落合忠士 「北方領土—その歴史的事実と政治的背景」 鷹書房 昭和46 237p. (A99—ZR5—5)
 - (10) 志賀義雄編 「アジア集団安全保障とクリール(千島)問題」 四谷書林 昭和48 378p. (A99—ZR5—9)
 - (11) 高倉新一郎 「故なく奪われた北方領土」 国民協会 昭和44 87p.
(A99—ZR5—4)
 - (12) 戸川猪佐武 「日の丸と赤い星—日ソ交渉100年の裏面」 双葉社 昭和48 252p. (A99—ZR5—8)
- <参レ第422号>